

学校通信 令和3年12月7日 No. 12

# 鼓ヶ浦 (つづみがうら)

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

TEL:386-5852 FAX:386-4663

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhtsudumigaura/>

## めざす学校像

「来てよかった、  
明日も来たい」  
と思う学校

## 校区人権フォーラム 開催

12月3日(金) 校区3校(白子小, 鼓ヶ浦小, 鼓ヶ浦中)の代表児童, 生徒が本校に集まり, 人権フォーラムを開催しました。

参加者は3つのグループに分かれ, 「いじめ・差別をなくすために私たちができること」というテーマで意見交流をしました。事前学習として, 中学校は体育祭種目「全員リレー」での学級トラブル, 小学校は休み時間の仲間外しと性の多様性を認めていくことについて話し合ってきたことをもとに進めました。

難しいテーマでしたが, どのグループも真剣に, いじめをなくしていくために何ができるか, どう行動するかを考えていました。

今回参加してくれた皆さんが, それぞれの学校に戻り, クラスで学年で学校で, いじめや差別をなくしていこうとする主体になってくれることを期待します。



## いじめは人間として許されない!

いじめによる自殺, 深く傷ついた心, 正義を失った学級集団など, 様々ないじめ問題が報道されています。いじめはなぜ起きるのでしょうか。いじめには人間の業の問題があり, 人間に感情がある限り起きうるものとも言われています。しかし, 本気でいじめを防止するという強い意志があれば, 未然に防ぐことはできると信じています。

いじめは, 心身の健全なる成長および人格の形成に重大な影響を及ぼし, 生命や身体に危機を生ずる人権にかかわる深刻な問題であることを子どもたちと共に考えたいと思います。いじめは, 毎日子どもたちを見守る教職員や保護者の方でも気づきにくいことがあります。いじめは「いつでも, どこでも」起きる可能性があるという意識で, 学校・保護者・地域社会・関係機関で連携し, 子どもたちをよく見ることが大切です。

【裏面に続く】

いじめは、疑い程度のことであっても、「声に出す」、「先生や仲間に相談する」などが必要で

す。また、人を傷つけるような言葉や行動をつつしむことが特に大切であり、安易にあだ名をつけたり、ふざけてかまったりしない学校風土をつくっていきたいと考えています。

学校では生徒の声をていねいに聞き取るための教育相談日（教育相談週間）を設定しています。さらに教科の指導においては、科学的・合理的に考える力をしっかり身につけ、理不尽なことには毅然と立ち向かうこと、道徳の授業では、判断力と人間として生きる意味をよく考え、自分の行動に責任を持つ意義を考えさせるなどを指導しています。

いじめ対応のポイントは、「未然防止」「早期発見」「早期対応」「重大事態への対応」の4点です。ご家庭においてもぜひお子さまと話題にさせていただきたいと思います。

## 「うざい」という言葉、わたし的には・・・

文化庁は毎年「国語に関する世論調査」を発表します。平成7年度から全国16歳以上の男女を対象に実施しているものです。その結果のいくつかを紹介します。

「わたしはそう思います」を「わたし的にはそう思います」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、16歳～19歳が44.1%、20代が47%と高くなっています。使用頻度は、10年前調査と比べて増加しています。文化庁では、「その場の雰囲気や状況を壊さないように断定的な言い方を避ける風潮が若い世代にはある」と見ているようです。

また、「うざい」という言い方をすることが「ある」と回答した割合は、年代が低くなるほど高くなる傾向があり、16歳～19歳では78%と最も高くなっています。若者の間で「うざい」という言葉を面と向かって言ったり、メールやLINEなどに書いたりして相手を傷つけることがよくあります。この数字からもその傾向が見て取れます。

確かに私たち大人も子どものころは、仲間内で独特の言葉や若者間で流行っている言葉使いをした経験はあります。しかし、大人と話をするときや、相手を傷つける言葉使いをしたときには「正しい言葉使いをしなさい」「その言葉は何ですか。謝りなさい」などと大人に厳しく注意されたものです。このようなことの積み重ねによって、子どもたちは、時と場合に応じた言葉使いや、相手を思いやる言葉使いを身につけていったのです。

調査の中で「小学生の言葉使いに注意を与えるべき人は誰だと思うか」という質問がありました。回答は、「父親・母親」が96.4%で最も高く、次いで「学級担任の先生」が91.2%、「学級担任以外の先生」が81.2%と続きます。

小学校と中学校の違いこそあれ、保護者や先生の注意・指導が子どもたちの言葉使いに大きく影響することは間違いないことでしょう。現在は、テレビやインターネットなどで乱れた言葉が氾濫しています。このような時代であるからこそ、私たち大人、特に保護者の皆さまや私たち教職員が、言葉使いについてしっかりと教えていく必要があります。